

平成31年度（2019年度）
日田市学力向上アクションプラン

平成31年（2019年）4月

日田市教育委員会

「芯の通った学校組織」推進プラン 第2ステージ ～大分県版「チーム学校」実現プラン～
(大分県教育委員会) に基づく平成31年度日田市学力向上アクションプラン

日田市教育委員会

日田市教育委員会では、「芯の通った学校組織」推進プラン 第2ステージ ～大分県版「チーム学校」実現プラン～ (大分県教育委員会) に基づいて、平成31年度(2019年度)の学力向上アクションプランを作成しました。

平成30年度の実践とその結果に基づき、平成31年度(2019年度)は本プランに基づいて、日田市の児童生徒の学力向上に向けた実践を進めていきます。

もくじ

1	日田市の児童生徒の学力の状況	・・・・・・・・・・	P 2
2	平成30年度の実践の検証	・・・・・・・・・・	P 3
3	平成30年度の実践の問題点	・・・・・・・・・・	P 4
4	平成31年度(2019年度)の目標及び指標	・・・	P 4
5	平成31年度(2019年度)の実践計画	・・・	P 5

1 日田市の児童生徒の学力の状況

平成30年4月に平成30年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）と平成30年度大分県学力定着状況調査（大分県）を実施しました。また、平成31年1月に平成30年度日田市実施分学力調査を実施しました。

(1) 平成30年度学力調査の結果

①平成30年度全国学力・学習状況調査（平成30年4月17日実施 全小・中学校）

《正答率》

学年	小学校6年生				
教科	国語		算数		理科
内容	知識(A)	活用(B)	知識(A)	活用(B)	
日田市	74	57	66	54	64
大分県	72	56	65	52	63
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
全国比	104.7	104.2	103.9	104.9	106.1

学年	中学校3年生				
教科	国語		数学		理科
内容	知識(A)	活用(B)	知識(A)	活用(B)	
日田市	77	62	69	47	69
大分県	77	62	66	45	67
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
全国比	101.2	101.3	104.4	100.2	104.4

②平成30年度大分県学力定着状況調査（平成30年4月24日実施 全小・中学校）

《偏差値》

	小学校5年生					
	国語		算数		理科	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用
日田市	52.1	50.5	51.1	51.1	51.5	51.5
大分県	51.7	51.1	51.8	51.5	51.6	51.1

	中学校2年生									
	国語		社会		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
日田市	51.9	50.2	50.7	50.1	50.8	50.3	50.1	48.9	50.8	51.1
大分県	52.0	50.4	50.9	49.7	51.3	50.2	50.7	49.9	50.7	50.6

③平成30年度日田市実施分学力調査（平成31年1月10日実施 全小・中学校）

【小学校】《偏差値》

学年	1年生		2年生		3年生		4年生			
教科	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	社会	算数	理科
日田市	50.3	51.0	51.2	51.9	51.3	50.3	51.3	50.1	52.2	48.5

学年	5年生				6年生			
教科	国語	社会	算数	理科	国語	社会	算数	理科
日田市	52.1	48.7	52.3	50.6	51.6	49.9	51.7	51.3

【中学校】

学年	1年生					2年生				
教科	国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
日田市	51.5	51.5	50.0	51.9	49.3	52.2	49.3	48.9	48.5	49.0

2 平成30年度の取組の検証

(1) 達成指標の達成状況

①大分県学力定着状況調査の偏差値と全国学力・学習状況調査の平均正答率（全国比）

【達成状況】※色付きは目標値以上

- ・小6算数A：全国比 103.9
- ・中3数学A：全国比 104.4
- ・中2英語〔知識〕：偏差値 50.8

②全国学力・学習状況調査の平均正答率（全国比）

- ・小6国語B：全国比 104.2
- ・小6算数B：全国比 104.9
- ・中3数学B：全国比 100.2

③全国学力・学習状況調査（質問紙：肯定的回答の割合）

○教科の勉強が好き（国語、算数・数学）

- ・小6算数 61.4
- ・中3数学 58.6

○教科の授業が分かる（国語、算数・数学）

- ・小6算数 81.4
- ・中3数学 73.9

○話し合う活動で自分の考えを広め深める

- ・小6 76.3
- ・中3 84.6

※国語については、平成30年度の質問事項に、「教科の勉強が好き」「教科の授業が分かる」がなかったため達成状況は不明。

(2) 目標の達成状況

- 小学校（算数）の知識・技能の定着及び（国語・算数）の思考力・判断力・表現力の向上が達成。
- 中学校（数学）の知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力が達成。
- 学びに向かう力は、小学校・中学校ともに改善しつつある。

3 平成30年度の実施の問題点

- つけたい力を明確にした単元プラン・本時案略案等による新大分スタンダード「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」等による組織的な授業改善の徹底。
- 全国調査の算数・数学B問題等を活用した「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力」を育成する授業改善の実施。
- 「中学校学力向上対策3つの提言」の【提言3・視点6】授業像を生徒と共有し、学習集団としての目標の設定と振り返り活動の取組の推進。
- 学力調査（全国、県）結果の課題解決に向けた具体的対策（授業改善等）の9月からの取組の徹底（PDCAサイクルの機能）。
- 資質・能力の育成に効果のある「授業改善」「家庭学習」「補充学習」「テスト」等の検証・改善の組織的な取組の推進。

4 平成31年度（2019年度）の目標及び指標

(1) 目標

- ①児童生徒の課題に関する目標
 - 基礎的・基本的な知識・技能の定着
 - ・小学校（算数） 中学校（数学・英語）
 - 思考力・判断力・表現力の向上
 - ・小学校（算数） 中学校（数学・理科・英語）
 - 学びに向かう力の向上
 - ・教科の勉強が好き
 - ・教科の授業が分かる
 - ・話し合う活動で考えを深め広げる
- ②学校等が抱える組織的・構造的な課題に関する目標
 - 単元・本時のつけたい力を明確にした新大分スタンダード「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」等による組織的な授業改善の徹底。
 - 全国調査B問題等を活用した「知識・技能などを実生活の様々な場面に活用する力」を育成する授業改善の全学年での推進。
 - 学力調査（全国、県）結果の課題解決に向けた改善策（授業改善等）の検証・改善の徹底（9月からの取組の徹底）。
 - 「中学校学力向上対策3つの提言」の【提言3】の中の一つである学習集団としての目標設定と振り返り活動の徹底。
 - 資質・能力の育成に効果のある「授業改善」「家庭学習」「補充学習」「テスト」等の検証・改善の組織的な取組の推進。

(2) 達成指標

- ①全国学力・学習状況調査（知識）の平均正答率（全国比）
 - ・小6算数（知識）103.0
 - ・中3数学（知識）102.0
- ②全国学力・学習状況調査（活用）の平均正答率（全国比）
 - ・小6算数（活用）103.0
 - ・中3数学（活用）100.5
- ③全国学力・学習状況調査（質問紙：肯定的回答の割合）
 - 話し合う活動で自分の考えを深め広める
 - 小6 77.0% 中3 76.0%
- ④大分県学力定着状況調査（質問紙：肯定的回答の割合）
 - 教科の勉強が好き（国語、算数・数学）
 - ・小5国語：61.0 算数 64.0
 - ・中2国語：61.0 数学 54.0

5 平成31年度（2019年度）の行動計画

(1) 「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想と実施による質の向上について

- 学校の組織的・計画的な授業改善を徹底するために、各学校は、学期1回以上の互見授業週間を設定し、全教員は、「新大分スタンダード」に基づく授業観察シートを活用し、学期に1回（年間3回以上）授業を観察する。
- 新学習指導要領を踏まえ、つきたい力を明確にした新大分スタンダードに基づく組織的・計画的な授業改善を徹底するために、小・中学校全教員は、「新大分スタンダード」と自校の「授業改善の5点セット」の「取組内容」に基づいた公開授業を、単元プランと本時案略案を作成して、11月までに実施する。（「ねらい（主眼）」「評価規準」「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」「C層・A層の手立て」を明記）
- 児童生徒の「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を向上させるために、小・中学校の算数・数学を指導する全教員は、全国調査の算数・数学B問題等を活用し、「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力」を育成する授業を、「算数・数学の学習で説明する力を伸ばす基本形」を利用して、学期に2回以上実施する。
- 学力調査（全国、県）結果の課題解決に向けた授業改善の組織的・計画的な取組を徹底するために、全小中学校は、全国調査の調査問題を実際に解いて、自校の結果の課題の改善策を見いだす校内研修を行い、その改善策の取組を9月からスタートさせ、12月までに検証・改善する。

(2) 「中学校学力向上対策3つの提言」の3つの項目（6つの視点）に関して

- 【提言2：視点3】学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みを構築するために、複数の教科担任のいる中学校は教科部会を、小規模校は近隣の学校との合同教科部会・授業参観・OENメール等による情報交換を月1回以上行い、授業・ワークシート・宿題・テスト等の改善を行う。
- 【提言2：視点4】学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みを構築するために、全中学校は、教科担任の「タテ持ち」又は「複数の同教科担任で学年部を指導する」体制をとる。

- 【提言3：視点5】「生徒と共に創る授業」を推進し、生徒による授業評価を授業改善に反映させる取組を構築するために、全中学校は、生徒による授業評価を授業改善に反映させる組織的・計画的な取組を、学期に2回以上行う。
- 【提言3：視点6】「生徒と共に創る授業」を推進し、学校が目指す授業像を生徒と共有し、それに向かう学習集団の目標の設定と振り返りの年度初めからの取組を徹底するために、全中学校は、目指す授業像を生徒と共有し、学習集団としての目標の設定を5月までに行い、振り返り活動を年間4回以上行う。（年度を跨ぐ取組の場合は、年度初めの目標設定でなくても可）
- 「中学校学力向上対策3つの提言」推進重点校（北部中学校）の取組の成果を普及するために、推進重点校の取組の成果を、公開研究発表会や各種協議会等で市内小・中学校に情報提供する。

（3）小学校教科担任制の推進に関して

- 市内小学校は、平成31年度中に、高学年を中心とした「教科担任制」「教科を分担する取組」の自校での推進について検討を行う。
- 主幹教諭・教務主任・研究主任合同協議会において、日田市内の「教科担任制」実施校が取組状況の情報提供を行う。
- 市教委は、県内の小学校教科担任制推進地域及び小学校教科担任制推進教員の取組や県教委からの情報を、市内小学校に提供する。

（4）新学習指導要領の実施等に関して

- 小学校外国語活動について
 - ・市内全小学校で、移行措置の学習内容についての確実な定着と言語活動の充実を目的に、次期学習指導要領による授業時数を確保する先行実施を行う。
 - ・外国語活動の研究指定校の公開研を通して、市内小学校へ研究成果を広げる。
 - ・指導充実のため、ALTの小学校3年生以上への派遣を2週間に1回以上となるように計画する。
- 学校教育目標の明確化、総合的な学習の時間との関連、カリキュラムマネジメント等について
 - ・各学校は、年度初めに作成する「学校教育の方針」を、次期学習指導要領による「資質・能力の3つの柱」で整理し、学校教育目標を設定する。
 - ・各学校が学校教育目標と関連させた教育課程の総合的な学習の時間の目標を作成し、地域の実情や学校の特色を踏まえた探究活動が実施されているかの検証を行う。
- プログラミング教育について
 - ・平成31年度の教育課程にプログラミング教育の時間を位置づける。また、小学校総則部会において、プログラミング教育の研修や、平成32年度の教育課程への位置づけ方の検討・情報交換を行う。
 - ・日田市教育センターの夏季研修で、プログラミング教育講座を行い、実践的な研修の機会を設ける。

<用語の説明>

- ◇正答率：全設問に対して児童生徒が正答した割合（集団の場合は平均値）。
- ◇全国比：全国の平均正答率を100とみたときの日田市の割合。
- ◇偏差値：個人や集団の相対的位置を、50を基準とした指数として表した指標。
- ◇新大分スタンダード（※大分県教育委員会ホームページ）
 - ：基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に加え、「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」の育成を目指す授業の在り方。（①「1時間完結型授業」②「板書の構造化」③「習熟の程度に応じた指導」④「生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業」の4つ）
- ◇中学校学力向上対策3つの提言
 - ：未来を切り拓く力と意欲を高める授業の実現を目指した、県内の全中学校で進める3つの提言（6つの視点）からなる中学校学力向上対策の取組。
 - 提言①「学校の組織的な授業改善による『新大分スタンダード』の徹底」
 - （視点1）「生徒指導の3機能」による問題解決的な授業の充実及び習熟度別指導の導入
 - （視点2）全教科に共通した授業改善の取組内容の設定による互見授業・授業研究の実施
 - 提言②「学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築」
 - （視点3）小規模校による近隣の学校との合同教科部会の実施
 - （視点4）複数の教科担任のいる学校による教科担任の「タテ持ち」や日課表等に位置付けた教科部会の実施
 - 提言③「『生徒と共に創る授業』の推進」
 - （視点5）生徒による授業評価の実施
 - （視点6）学習集団としての目標設定と振り返り活動の実施
- ◇授業改善の5点セット
 - ：学校の組織的な授業改善に向けて、マネジメントサイクル（PDCAサイクル）を実働させるために作成する様式。（【①授業改善テーマ】【②授業改善の重点】【③取組内容】【④取組指標】【⑤検証指標】の5点）
- ◇タテ持ち：人の教員が複数学年を担当し、同一教科を担当する複数の教員で協同して授業づくりを行う仕組み。
- ◇学校評価の4点セット
 - ：校長のリーダーシップの下、学校教育課題の解決に向けて組織的に取り組むために、重点目標を焦点化・具体化した上で作成する様式（重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標の4点）
- ◇単元プラン：各教科の学習単位ごとの指導計画
- ◇C層・A層：児童生徒の習熟の程度（C層：努力を要する状況）（A層：十分満足できる状況）
- ◇教科担任制：教師が専門教科を担当し、複数の学級において、その教科を教える方式。
- ◇教科担任制推進地域、小学校教科担任制推進教員（※大分県教育委員会ホームページ）
 - ：大分県教育委員会が「小学校教科担任制推進地域」及び推進地域内の「小学校教科担任制推進校」を指定し、推進校に配置した「小学校教科担任制推進教員」を中心に、今後、小学校高学年における教科担任制を全県に展開していく取組。
- ◇ALT：小中高校などの英語の授業で、日本人教師を補佐し、生きた英語を子供たちに伝える英語を母語とする外国人。
- ◇プログラミング教育
 - ：児童がコンピュータで文字入力などの基本的な操作を習得するとともに、プログラミング的思考（自分が意図した一連の活動を育成するための論理的思考力）を育成するための教育。